

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム笑顔
(ユニット名)	Aユニット
所在地 (県・市町村名)	山形県上山市
記入者名 (管理者)	関 修
記入日	平成 19年 10月 1日

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で理念を検討し、具体化されたものをつくりあげている。	○ 必要時見直しをし、つくりあげていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や日常的な場でも話し合っており、実践に向けて取り組んでいる。	○ 継続し会議等で話し合う機会を設け取り組んでいく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関の戸を開けるとすぐ目につくように掲示しており、またホーム便りにて配布等を行っている。	○ 今後も継続し、家族や地域の人々に理解を得ていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	訪問者との交流はあるが、ホームが病院、老健と同敷地内にあるため、なかなか難しい。	○ ホーム便りの配布等で理解を得、深めていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	働きかけは行っているが、病院敷地内にあるため、現在のところ自治会等の参加は難しい。	○ 運営推進会議等で地域に働きかけをしているので、今後も継続し取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に市町村からの介護教室等の要請はなく、また、事業所独自でもまだ具体的に組み立てていない。	○	市町村との連絡をより密にし、積極的に活動していく。また、同敷地内にある施設等の行事等も利用し行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価にスタッフ全員で取り組むようにつとめ、また同時に日頃のサービス等を見直し、改善するよう取り組んでいる。	○	フロア会議等を利用し、継続し、日々の生活を見直し、改善に取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議毎に前回の会議後のホーム内の様子や取り組み等報告し、又今後の計画も伝えるようにし、意見をあげてもらっている。会議で出た意見はホームのフロア会議で報告し、活かすようにしている。	○	今後も継続し、あがった意見を活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的にはないが、市役所に行った際等、情報や助言をもらうようにしている。又、何かあれば電話等にて意見をもらうように努めている。	○	市の研修会議等に積極的に参加し意見をもらうようにしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人としての勉強会等でしか機会を得ていない。また、現在のところ必要な方もいない状況。	○	今後積極的に学ぶ機会を設け、ホーム全体で取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議等で話し合う場を設け、防止に努めている。	○	今後積極的に学ぶ機会を設け、ホーム全体で取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	必ず説明を行い、不安、疑問点のないように十分な説明を心がけ、何か少しでもあれば、どんな事でも連絡をいただくようにしている。	○	今後も十分な説明を行い理解・説明を図り家族の不安、疑問点を解消していく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常に利用者の方の声を聞くように心がけ、何かあれば解消できるように心がけている。	○	継続して利用者の声の声に耳をかたむけ、運営に反映させていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	不定期だが、必要時個々人の家族に連絡し報告等している。また、各居室に日記帳を置き、暮らしぶりを記載し見れるようにしている。	○	グループホームたよりにて、職員の異動や、暮らしぶりを報告していく。また、なかなか面会に来れない方については、今後個々人ごとに暮らしぶり等手紙を利用し報告していく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に御意見箱を設け、意見、苦情等をいただけるようにしている。不満、苦情等があった際は、フロア会議で検討、対応し、また併設している老健との会議が月に一度あるため、その際報告し意見を得るようにしている。また、外部へは運営推進会議での報告、玄関への掲示を行っている。	○	今後も継続しおこなっていく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	フロア会議や、個人面談の機会を設け、意見等を聞く機会をも設けている。	○	今後も継続し意見等を聞く機会を設け、反映させていく。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	フロア会議等で、行事等の企画を検討する際、当日に必要な時間に人員を確保するために、調整等を行い、柔軟に対応している。	○	今後も会議等で話し合う時間を設け柔軟に対応していく。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の配置異動がある際は、急な入れ替えはさけ、新しく配置される職員と異動する職員が十分な引継ぎ、また利用者にも馴染むように配慮している。	○	継続し利用者へのダメージを最小限に出来るよう配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数等を考慮し認知症実践者研修等に参加できるよう計画している。また、月に一度のフロア会議後、勉強会を実施しており、法人内の勉強会にも参加している。	○ 認知症実践者研修、法人内勉強会だけでなく、外部研修等の機会を設けていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内にある老健や病院での勉強会に参加し、意識の向上やサービスの質の向上に取り組んでいる。	○ 同法人内だけでなく、地域の同業者との交流の機会を増やしていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面談を行い、ストレスの軽減を図っている。また、法人として講演会を実施、無理のない勤務体制を組むなど、ストレスの軽減に配慮している。	○ 継続し面談の実施や講演会等により職員のストレスの軽減に配慮していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会や研修に積極的に参加できるよう呼びかけている。教材も徐々にそろえ、いつでも見れるようにしている。	○ 継続し各自が向上心を持って働けるよう努めていく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前からできるだけ本人との面談の機会を多く設け、信頼関係を築くように努力し、気軽に何でも言える環境を作るように努めている。	○ 今後もより多く面談の時間を設け、受けとめるように努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前からできるだけ家族との面談の機会を多く設け、信頼関係を築くように努力し、気軽に何でも言える環境を作るように努めている。	○ 今後も家族との面談を多く設けるようにし、何でも言える環境を整えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係各署とも十分に連絡を取り合い、意見を聞き対応している。	○	今後も十分な連絡を取り合い。十分な対応に努めていく。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ一緒にいる時間を多く設けることで会話を多くし、お互いに情報を共有し共感している。その方の得意な分野を教えてもらう等、支えあう関係を築くよう努めている。	○	今後も本人とのより良い関係を築けるように配慮し、支えあう関係を目指していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	食事会を設け、利用者、家族、職員が共に過ごすことの出来る時間を設けたり、日々の様子を日記帳に記載することで、一緒に本人を支えていく関係を築けるように努めている。	○	家族会を設け、一緒に支えていく関係が築けるように支援していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人及び家族それぞれの話を親身になって聞き、それぞれの立場の理解に努め、行事の参加、食事会の機会等によりよい関係が築けるよう支援に努めている。	○	家族会を設け、一緒に支えていく関係が築けるように支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や散歩、ドライブなど外出の機会を設け、地域との関係が出来るだけ途切れないように努めている。	○	個々人の馴染みの場所に行けるよう個別に支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々人とスタッフとの信頼関係を大切にし、利用者同士が良い関係が保てるようにスタッフが間に入り支援している。	○	今後も利用者一人ひとりとの関係を大切にし、孤立しないように支援支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の病院や老健への退去の際は契約終了後も面会に行っている。	○	面会が困難な方は電話や関係事業所等と連絡をとり関係を大切にしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に耳を傾け、出来るだけ意向に添えるよう努力している。また困難な場合でも、家族からの情報や生活歴等も参考にし、本人本位に検討している。	○	今後も本人本位を第一に検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や、入居時に本人及び家族、また在宅でのケアマネージャーやサービス事業所より、これまでの暮らし等を伺い、把握に努めている。	○	継続しその方の生活歴を把握し、支援につなげていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの現状をスタッフ全体で常に把握するように努め、心身状態に変化がある際はその都度対応するよう努めている。	○	継続し総合的な把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要時毎日カンファレンスを開き、家族等の意見も取り入れ介護計画を作成している。	○	カンファレンスの重要性、家族との協力との、を再認識し、介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しをしており、また変化があればその都度カンファレンスの実施と見直しを行い計画を作成している。	○	今後も継続し継続的な計画の見直しを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々人のカルテに記入しケア等の変更があった際は申し送りノートに記載し全スタッフで情報を共有しており、必要時介護計画の見直しも行っている。	○	必要時カルテの見直し等も行い、情報の共有に努めていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	現在、公共的施設等からは特に協力を得ていない。	○	外出時等、本人の意向や必要性を考え協力を得ていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のケアマネジャー等に相談等するようにしている。	○	他サービス事業所も交え介護保険外のサービスを検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括支援センターと協働は出来る体制となっていない。	○	必要に応じて地域包括支援センターと協働するようになっていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人のかかりつけ医と必要時連絡をとり、必要な受診支援を行っている。また、ご家族より緊急時は併設病院の受診の許可を得ており、情報を共有している。	○	今後もかかりつけ医等と関係を取り適切な医療に努めていく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、専門医師等との支援体制ができていない。	○	利用者、家族と共に地域の専門医に助言を求めていく等し、関係を図っていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設等の看護師に日々の健康管理や相談など出来ており、情報交換している。	○	今後も施設等の看護師と情報交換し支援していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の相談員とも常に連携を心がけ、早期退院できるように支援している。	○	継続し病院の相談員等との関係に心がけ、支援していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院に入院された際等、今後の方針について、病院の相談員や医師も含め、家族と共に話し合い、方針を共有するよう努めている。	○	継続し関係部署、家族と共に話し合い、方針を共有していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合等、その都度家族とも情報交換し対応を検討し、協力しておこなっており、かかりつけ医にも相談し行っている。	○	継続し家族、かかりつけ医と共にやっていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居が決定した際には情報提供書等を中心に、家族、関係先に細かな本人の情報を伝えている。	○	継続し本人にダメージのないように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体で常に心がけている。	○ 認知症の勉強会を通して理解を深めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションを多くし、信頼関係を得たうえで個々人の希望を聞き、その人らしい生活が出来るよう支援している。	○ より個別性に目をむけ支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個人のペースに合わせて支援している。個々人の希望を導き出すのが困難な時は家族からも情報を得るようにしている。	○ 出来るだけ本人の希望に添い生活できるように支援し、希望がない場合でも本人本位に生活できるよう検討し、支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で出来ない方は鏡を見てもらいながら援助したり、服も好みの服を選んでいただいている。希望に応じていきつけの美容院行っていただいている。	○ 継続しその人らしさを大切に支援していけるようにしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食事の用意はまだ完全に出来てはいないが片付けなどは役割として協力している。	○ お菓子作り等、簡単なものから一緒につくり、食べたりしている。今後は食事の準備や調理等ができるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間などに様々なお菓子を用意し、お茶等も日々飲みたいものを提供している。	○ もっと日常的に楽しめる環境を整えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、その人の排泄パターンを把握するようにしている。	○	オムツ使用の方でも残存機能を活かし可能な限りトイレでの排泄を促す。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に応じて入浴時間を配慮しているが、現在は特に希望等ないため、週2回、ホーム内にて入浴を実施している。また身体状況に応じて、隣接の老健の機械浴を使用している。	○	隣接の老健の温泉等も時々使用している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や状況を把握し、また本人の不安を出来る限りなくし、安心して休めるように努めている。	○	不安と取り除く以外にも、日中の活動量を増やしたり、活動を促している。また、不眠の強い方は、主治医と相談し対応している。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、食器拭き、裁縫、掃除など個々人で出来る範囲で役割が持てる場面を提供している。	○	全員が何らかの役割が持てるようにしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来ない方に関しては、ホームでの管理となり、使用时、ノートに記載し家族に報告している。	○	自己管理ができそうな場合は本人、家族と相談し自己管理出来るよう支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少しずつではあるが外食や買い物など、外出の機会が増えてきている。	○	個々人の希望に応じて継続し外食や買い物の機会を増やし、催し物の参加や近隣への訪問など行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に外出や外泊の機会を設けており、また花見やお祭り等へ出かけるようにしている。	○	本人の希望に添うよう、家族を含めスタッフ間で話し合い、家族の協力を得ながら対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時電話が利用できるようにしている。手紙のやり取りは自由に出来るようにしてはいるが、手紙を出すことはほとんどない。	○	年賀状等を利用し、手紙でのやり取りを支援しているが、そのような機会を多くしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間を設けておらず、来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。また連絡があれば宿泊も可能としている。	○	今後も気軽に訪問できるようにし、より居心地よく過ごせるように工夫していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解、把握しており、身体拘束をしないケアを心がけている。	○	身体拘束について知識を深めるため勉強会や研修会に参加する機会をもつ。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	普段は鍵をかけない生活ができるように努めている。やむなく使用する際は家族に説明をしている。	○	継続し鍵をかけない生活ができるような工夫やスタッフ間での連携を図っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングにスタッフが不在にならないようにスタッフ間の連携を図り、安全確認に努めている。	○	一人ひとりのプライバシーに配慮し継続しおこなっていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(刃物等)は数等を把握し、また洗剤や薬品等は倉庫にて保管している。	○	継続し状態に応じた対応を行っていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを使用し、その都度事故原因を追究し再発防止に努めている。事故がおこった際は情報収集をスムーズに行い報告をしている。	○	勉強会や防災訓練等を通して、事故防止に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行っていないが、マニュアルを作成し対応できるようにしている。	○	急変や事故発生時に備え隣接している病院、老健とも協力し勉強会等を定期的の実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年二回の防災訓練だけではなく、消火器の使い方等、避難方法を身につけるようにしている。	○	同敷地内の協力は得られる体制となっているが、地域の人々の協力も得られるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクに対し、事前に説明を行ったうえで、家族及び本人の希望を尊重し家族と共に対策を検討している。	○	継続し十分な説明を行い対策等行っていく。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から一人ひとりの健康状態を観察し、異変等あった際は速やかに報告し主治医の指示を受け対応している。	○	今後も継続し健康状態の観察を行い、対応に努めていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を理解し、症状の観察を行っている。薬の変更があった際はカルテに薬の内容をはさみ、すぐに把握できるようにしている。	○	薬の目的や副作用について更に知識を深めるようにしていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、体操の促しや水食事摂取量の観察、水分摂取量の観察等を行い、また必要時医師や老健の栄養士に相談している。	○	継続し状態の把握、観察を行い、医師や栄養士と連携し取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人で出来る方には声掛けし、介助が必要な方へは介助をし、毎食後に口腔ケアを行っている。	○	同敷地内の病院の歯科衛生士等に協力を依頼し口腔ケアの指導及び勉強会を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士とも相談し、一人ひとりにあった食事形態で提供している。また、本人の嗜好も配慮し、バランスの良い食事がとれるように支援している。	○	家族等にも情報を得て継続し行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、感染者がいる場合はマニュアルそって対応するようにしている。	○	勉強会にて感染症に対する知識を深めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の衛生管理について、管理方法や掃除の方法、また定期的な消毒等実施している。また、食材も常にチェックし管理している。	○	継続し衛生管理等実施していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	案内板を設置し場所がわかりやすいようにしている。また、玄関に装飾を行い親しみやすい環境を整えている。	○	継続し行い、地域の方や家族にも意見を聞き取り組んでいく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が不快にならないように配慮し、食堂等に絵や季節感のある物をスタッフと利用者と共に作成し飾るようにしている。	○	継続し季節感を取り入れ利用者が安心して生活できる環境を整えていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き一人で過ごしたり、他者との交流が出来るよう工夫している。	○	更に工夫しよりよい空間作りを目指していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、自宅で使用していた家具等を、本人、家族と相談しながら使用し、また絵や写真を飾る等して居心地よく過ごせる工夫をしている。	○	継続しより居心地の良い環境を整えていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適時、換気・温度調整を行い、希望や状況等に合わせた対応をしている。	○	継続し、こまやかな配慮を実施していく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に応じて自室の環境整備を共に行ったり、安全に実施できるよう配慮している。	○	一人ひとりの身体機能に応じて更に安全に自立して生活できるよう検討していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室がわからなくなる方に対して自室の目印となる物を飾ったり、名前のプレートをつける等し、不安のない工夫をしている。	○	他のことに関しても一人ひとりのわかる力を活かし出来るだけ自立できるように工夫していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関に花を植えたり、ベランダにプランターを置きトマトやきゅうりを植え楽しめる環境にしている。	○	建物の周囲を利用し、一年を通して空間を活用できるよう取り組んでいく。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

3



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム笑顔は、部屋の一室一室の壁紙の模様を九部屋九色とし、一人ひとりの主体性を大切にし、その人の笑顔が太陽となり、その人らしい個性ある部屋へと生まれかわることを願いながらつくりました。明るく家庭的な雰囲気を重視し、入居者されている方が「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができるよう、そして精神的に安定し、健康で明るい「笑顔」ある生活が送れるようスタッフ一同で取り組んでいます。2ユニットの併設ということで、ユニット間の交流も積極的に行っています。また、同時敷地内に同じ法人の運営する病院と介護老人保健施設も併設しているため、緊急時や、行事の参加、またスタッフのスキルアップ等、様々な点で協力体制を整えています。